

安全データシート (SDS)

作成 : 平成 16 年 01 月 29 日

最新改訂 : 令和 2 年 05 月 15 日

【1. 製品名及び会社情報】

製品名 : Sb (Powder, Granule, Piece)

会社名 : フルウチ化学株式会社
住所 : 東京都品川区南大井 6-17-17
担当部門 : 営業部
電話番号 : 03-3762-8161
FAX 番号 : 03-3766-8310
緊急連絡先 : 同上

推奨用途 : 電子部品材料、研究用途、工業用途。
整理番号 : 200515-06Hs

【2. 危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険性

水反応可燃性化学品 : 区分外

健康有害性

特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 区分 2 (呼吸器)

※記載のないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素

シンボルマーク :



健康有害性

注意喚起語 :

警告

危険有害性情報 :

・長期にわたる、または、反復暴露により呼吸器の障害のおそれ。

注意書き :

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

<予防策>

- ・すべての安全注意(SDS など)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

<応急措置>

- ・気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

<保管>

- ・施錠して保管すること。

<廃棄>

- ・内容物、容器を、国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

【3.組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別：	単一製品
化学名又は一般名：	Sb
別名：	アンチモン、Antimony
化学式：	Sb
濃度範囲：	99.9%以上
CAS 番号：	7440-36-0
官報公示整理番号：	—

【4.応急措置】

- ・以下のいずれの場合も直ちに医療機関に連絡し、医師または医療機関に適切な指示を求めるとともに速やかに医師の診断を受けられるように手配する。
- ・（注意事項など特徴的な措置があれば記載）

飲み込んだ場合：

- ・速やかに口をすすぎ、医師に連絡すること。

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・多量の水で、皮膚を速やかに洗浄すること。
- ・汚染された衣類を再使用するときは洗濯すること。

目に入った場合：

- ・直ちに瞼を開き多量の流水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。洗浄は眼球・瞼の裏、その他目の細部に至るまで完全に洗浄する。
- ・洗浄は少なくとも 20 分間は行う
- ・処置の最中から医療機関での処置に至るまで、被災者に付添人をつける。

予想される急性症状及び遅発性症状：

- ・吸入した場合：咳、嘔吐。
- ・飲み込んだ場合：腹痛、下痢、嘔吐、灼熱感。

最も重要な兆候及び症状：

- ・ データなし

その他：

- ・ 暴露の影響は遅れて出ることがある。
 - ・ 医師、医療関係者に暴露の状況を伝えるとともに、2次災害を防ぐための注意を通知する。
-

【5.火災時の措置】

消火剤：

- ・ 水噴霧、泡消火薬剤、粉末消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂。

使ってはならない消火剤：

- ・ 棒状注水。

特定の危険有害性：

- ・ 火災により有害な酸化アンチモンのガスを発生するおそれがある。

消火方法：

- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 消火作業は風上から行う。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・ 消火後も、大量の水で十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：

- ・ 消火は周囲の安全を確保し、適切な呼吸装置、化学用保護衣などを着用して行う。
-

【6.漏出時の措置】

人体に対する注意事項：

- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- ・ 適切な保護具を着用するまで、破損した容器、漏出した本品に接触してはならない。
- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 風上から作業する。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 粉じんが発生する場合、水噴霧により飛散を抑える。
- ・ 粉じんなどを吸引しないこと。
- ・ 密閉された場所に立ち入るときは、事前に十分換気をする。

環境に対する注意事項：

- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 漏出物が河川、水路へ流出または地下へ浸透することを防ぐ。

回収・中和：

- ・ 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で産業廃棄物として廃棄処理する。
- ・ 回収後、漏洩場所は大量の水で洗い流す。

封じ込め及び浄化方法・機材：

- ・ 危険でなければ漏れを止める。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

二次災害の防止：

- ・ 排水溝、地下室などの閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・ 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

【7.取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。
- ・ 皮膚や眼、衣服等に付着しないように、保護具、保護設備を使用する。
- ・ 粉じんが発生する場合は密閉化すること。
- ・ 防爆型の換気装置、電気機器、照明危機を使用すること。

局所排気／全体換気：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。

注意事項：

- ・ 作業場所では換気を十分に行う。
- ・ 緊急時に備えて、安全シャワーや洗眼の設備を備える。

安全取扱注意事項：

- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
- ・ 粉じん、ヒュームの発生を防ぐこと。
- ・ 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱後はよく手を洗うこと。
- ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙しないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

接触回避：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管

適切な保管条件：

- ・ 容器に密閉し、換気の良い乾燥した冷暗所に施錠して保管する。

避けるべき保管条件：

- ・ 直射日光や高温高湿を避けること。
- ・ 食料、飼料から話して保管すること。

混触危険物質：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。
- ・ 酸化剤、酸、ハロゲン

【8.暴露防止及び人に対する保護措置】

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 高温工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、管理濃度、許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

暴露限界値

管理濃度：	労働安全衛生法	未設定
許容濃度：	日本産業衛生学会（2007） ACGIH（2007）TWA	0.1mg/m ³ 0.5mg/m ³

保護具：

- ・呼吸用保護具：適切な呼吸保護具を着用すること。
- ・保護メガネ：適切な保護メガネ、顔面保護具。
- ・保護手袋：適切な保護手袋の着用。
- ・保護長靴：適切な保護具の着用。
- ・保護衣：適正な保護具を着用すること。

【9.物理的及び化学的性質】

外 観：	銀白色から灰色の光沢の有り、硬くて脆い金属。
臭い：	無臭
pH：	データなし
融点／凝固点：	630℃
沸点、初留点と沸騰範囲：	1635℃
引火点：	データなし
発火点：	データなし
燃焼または爆発の範囲：	データなし
蒸気圧：	133Pa（886℃）
蒸気密度：	データなし
比 重：	6.7g/mL（20℃）
溶解度：	水に不溶
オクタノール／水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

【10.安全性及び反応性】

安全性：	通常の条件で安定である。 高温の表面、火花又は裸火により発火のおそれ。
反応性：	塩素等のハロゲンと接触又は混合すると、はげしく反応して有毒なハロゲン化物を生じる。 酸化剤や金属粉末と激しく反応し、火災や爆発のおそれがある。 酸と反応し、有毒な SbH ₃ を発生するおそれがある。 粉じんが発生すると、空気と反応し粉じん爆発のおそれがある。
避けるべき条件・材料：	酸化剤、酸、ハロゲン、高温、裸火、スパーク。
危険有害な分解生成物：	燃焼すると有毒な酸化アンチモンのヒュームを発生するおそれがある。

【11.有害性情報】

急性毒性：	経口 データ不足のため分類できない。 なお、ラット LD ₅₀ =7000mg/kg との情報が見られ、 口腔、胃、小腸を刺激されるおそれがあり、嘔吐、血便、肺充
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

	血、昏睡などを起こすおそれがある。
経皮	データなし。
吸入（粉じん）	データなし。
皮膚腐食性／刺激性：	データ不足のため分類できない。 なお、「皮膚に対し、刺激性を有する」との情報が見られた。
眼に対する重篤な損傷／刺激性：	データ不足のため分類できない。 なお、「眼に対し、刺激性を有する」との情報が見られた。
生殖細胞変異原性：	データなし。
呼吸器または皮膚感作性：	データなし。
発ガン性：	毒性情報と既存分類がないことから分類できないとした。
生殖毒性：	データ不足のため分類できない。
特性標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)：	データなし。
特定標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)：	ヒトについて「金属蒸気及び金属酸化物粉末の長期間暴露は肺障害を誘引する」、実験動物について「間質の線維化、肺胞壁の肥大及び過形成、肺の立方及び円柱上皮の変質形成」の記述があり、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は区分2相当のガイダンス値の範囲でみられた。 区分2（呼吸器）。
吸引性呼吸器有害性：	データなし。
注意：	使用者は未知の有害性を常に存在するものとして十分な注意を払う必要がある。

【12.環境影響情報】

水生環境有害性(急性)：	データなし。
水生環境有害性(慢性)：	データなし。

【13.廃棄上の注意】

残余廃棄物： 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って、危険有害性のレベルを低い状態にする。
関連法規ならびに地方自治法に従い、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上処理を依頼する。

容器： 付着物があることを十分に認識し、洗浄等して廃棄すること。
産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。

【14.輸送上の注意】

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

- ・ 陸上輸送：該当なし。
- ・ 海上輸送：船舶安全法の規制に従う。
- ・ 航空輸送：航空法の規制に従う。

- ・ 安全対策：重量物を上積みしない。
輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

- ・ 国連分類：クラス 6.1
- ・ 国連番号：2871（アンチモン粉末）
- ・ 緊急時応急措置指針番号：170

【15.適用法令】

労働安全衛生法：	名称等を表示すべき危険物及び有害物（アンチモン及びその化合物：法第 57 条、施行令第 18 条） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（アンチモン及びその化合物：法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2） 危険物・発火性のもの（金属粉；法第 20 条二、令別表第 1）
化学物質管理促進法（PRTR 法）：	第 1 種指定化学物質（アンチモン及びその化合物：法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1）
毒物及び劇物取締法： 労働基準法	非該当 疾病化学物質（法第 75 条第 2 項、則第 35 条・別表第 1 の 2 第 4 号）
消防法：	危険物第 2 類・第 1 種可燃性固体（金属粉；法第 2 条第 7 項別表第 1）
大気汚染防止法：	有害大気汚染物質（アンチモン及びその化合物；法第 2 条第 13 項）
水質汚濁防止法：	指定物質（アンチモン及びその化合物；法第 2 条、第 14 条の 2、令第 3 条の 3）
船舶安全法：	毒物類・毒物（危規則第 2 条、第 3 条別表第 1）
航空法：	毒物類・毒物（則第 194 条危険物告示別表第 1）

【16.その他の情報】

- ・ 記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではありません。全ての化学製品には未知の危険有害性が有るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定ください。また特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。
- ・ 本データシートそのものは安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものであり、安全の保証書ではありません。
- ・ 製品の形状、状態に対する注意
 - i. 製品名に対し、基本的に形状による物理化学的危険性、健康有害性及び環境有害性の変化が小さいときは、その形状を規定していない場合があります。但し、本文中で形状の変化による危険性、有害性の変化に言及していることもあります。また弊社にて想定していない環境においては、形状の差異により危険性、有害性が高まる場合もあります。
 - ii. 製品名に対し Powder, Granule の表記がある場合は、製品が粉末又は顆粒状であることを意味しています。主に金属の場合には粉末状で、発火や爆発の危険性が高まる場合がありますので、ご注意ください。

Furuuchi chemical SDS

No: 200515-06Hs Antimony

- iii. 製品名に対し、Piece の表記がある場合は以下のような粉末状以外の形状を示しています。但し製品が塊状の場合であっても、保管、取扱いの状況により粉末（粉塵）が発生し、危険性、有害性が高まる可能性があります。形状の変化が起こりうる保管、使用環境が想定される場合には、事前に安全対策を実行してください。
Piece: Chips, Flakes, Chunk, Shot, Sheet, Wire, Stick, Rod, Pellet, Block, Ingot, Target.

参考文献

- ・ (独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- ・ 理化学事典 第4版 岩波書店
- ・ 化学物質安全性データブック OHM 社
- ・ 化学品安全管理データブック 長瀬産業(株)
- ・ 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- ・ ACGIH
- ・ ERG2008

【改訂履歴】

平成 16 年 01 月 29 日	第 1 版	整理番号 040129-01Ta	全面改訂
平成 17 年 01 月 19 日	第 2 版	整理番号 050119-03Ha	情報の追加・訂正
平成 21 年 10 月 01 日	第 3 版	整理番号 091001-03S	情報の追加・訂正
平成 22 年 12 月 08 日	第 4 版	整理番号 101208-04Hm	G H S 表記への対応
平成 28 年 06 月 01 日	第 5 版	整理番号 101208-05Hs	安衛法改正への対応等
令和 02 年 05 月 15 日	第 6 版	整理番号 200515-06Hs	本社住所の修正